

アートプロジェクト

第二副都心_千葉市海浜地区プロジェクト

市民参加のかたち：地域調査・観光体験・展示鑑賞

本プロジェクトは、千葉市における副都心的地域、特に検見川浜や稲毛海岸といった埋立地域やその近隣地域を中心に、地域に蓄積された記憶や関係性を扱うことで、現代都市における孤立感や疎外感の緩和を試みるのが目的の一つである。急速な都市開発と人口流動のなかで希薄化する地域でのつながりに対し、歴史的・空間的な痕跡を手がかりに再接続を促すことを目指している。

プロジェクトは二つの軸から構成される。ひとつは、地域の方々を中心とした参加者との対話を重視した「歴史調査ツアー」で、生活のなかに埋もれた都市の記憶や変化の過程を探り出し、地域を再解釈し、またコミットしていく。もうひとつは、「観光案内所」をモチーフにした展覧会であり、「レジリエンス」、「寛容」、「癒し」をキーワードとして、調査を元に制作した作品の展示によって、視覚・空間的に地域の記憶を再構成する。

本取り組みは、現代の都市に見られる地域的アイデンティティの喪失や均質化の傾向に対し、個別的な記憶や場所性にも立脚した表現を通じて、他者や都市との新たな関係のあり方を提示しようとするものである。調査・展示のプロセス全体を通して、都市における「癒し」や「許容」、そして「どのような関わりの中から自分たちの地域が創出されていくか」を検討する機会を設ける。

地域を見直すまなざしを共有する場として、また、都市に潜む記憶をひらく試みとして、本プロジェクトに多くの視点が交わることを期待している。



第二副都心

2025年1月より活動を開始。アーティストの東條陽太と春木聡を中心としたプロジェクト／アーティストコレクティブ。「副都心」という、「大都市の周辺部に発達し、都心の機能の一部を分担する副次的な中心地区」を指す言葉を足がかりに、さらにその先にある第二の副都心の可能性を表現の中で試みる。

【構成メンバー】

春木 聡

1988年 千葉市生まれ

東京芸術大学大学院美術研究科修了

これまでの参加型の取り組みとして「東京芸術大学美術部」や「KOTOBUKI meeting」などがある。

東條 陽太

1988年 東京都江戸川区生まれ

東京芸術大学大学院美術研究科修了

千葉市美浜区の埋立地での生活の影響で、文明の痕跡に強い憧れや関心を持つようになる。

千葉国際芸術祭2025「ソーシャルダイブ」において、私たちは千葉市にゆかりを持つ者のまなざしから、「どのように地域を再解釈し、またどのようにコミットできるか」を地域住民の方をはじめとした皆さんと共に考えたいと思っている。